

月刊 ふっさっ子

「福生珠算学校報」

第600号

発行

福生珠算学校

東京都福生市志茂190
電話 042(551)0646

編集責任者

山崎 茂男

いままでの紙面については、500回の記念号にくわしく書かせてもらっていますので、今回は、節目のところだけひろいださせていただきます。

はじめの二年は

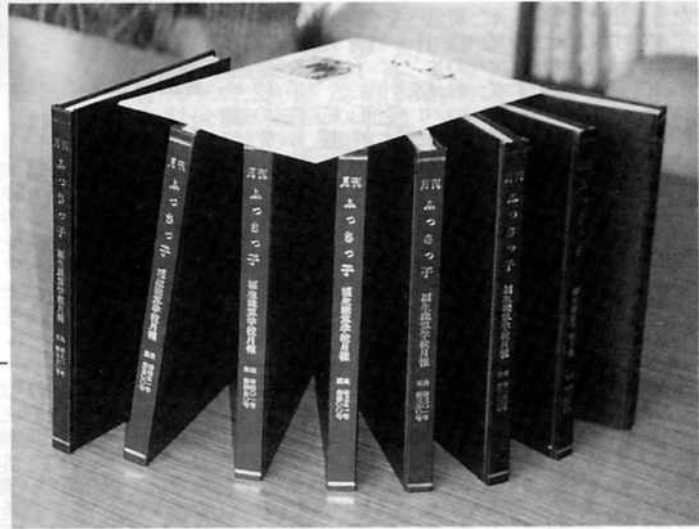
【そろばん会会報】

○一九四七年(昭和22年)六月
そろばん会員感想文綴り
そのあとガリ版刷りで五回発行しました。

【そろばん塾月報】

○一九四九年三月(1号)

「塾月報」とあらため、このあとは完全に月刊で継続です。いま600号というの、これから数えてのことです。ただし私が初刊行は22年のものなの



月刊・ふっさっ子

やすまず おくれず

600号に 到達できました

で、あくまでも発足はそこからとし、年数は五十三年間です。

福生珠算学校が認可校に

○一九五四年三月に、それまでのそろばん塾から、東京都認可の福生珠算学校となったので、「塾報」を改名しました。

【福生珠算学校月報】

○一九五四年五月(58号)

「塾月報」から「珠算学校月報」としました。

○一九五七年三月(92号)

「そろばん会」から十周年を記念して、当校内に「社会人学級」を開設。この活動はまもなく発足の、福生町文化連盟づくりにつながりました。

○一九六〇年一月(136号)

この号より、都立多摩高校の宇野一先生に「教育相談室」の欄をお願いし大好評。この欄を基に、町内小・中学校PTA、婦人会、青年団等の意見交換会も開き、当紙に掲載を続けた。

○一九六六年三月(200号)

福生町社会教育委員さん全員の座談会を当校で開き、この200号に八頁の特集とした。また珠算史研究会会長の鈴木久男先生よりご寄稿いただいた。

○一九六九年五月(238号)

本の「ふっさっ子・第一集」を出版した。出版祝賀会のご報告、お礼のことば等。

○一九七〇年十一月(256号)

法政大学教授村上直氏の特別寄稿「江戸時代前期における福生熊川村の領主」連載始まる。村上教授には、他にも多くの研究論文ご寄稿をいただく。

【月刊・ふっさっ子】

○一九七二年一月(270号)

本の「ふっさっ子」出版を機に大胆に改稱。

○一九七四年七月(300号)

300号をふりかえった記録を載せた。この時、日刊新聞各紙に大きくご紹介をいただく。

○一九七七年三月(332号)

そろばん塾より三〇周年となり記念号。現代日本を代表する福生出身の大詩人、吉増剛造氏より「詩的な糸のつながり」のご寄稿をいただく。

○一九七七年二月(341号)

英国オックスフォード大学附属中央図書館より、本の「ふっさっ子」送れとお便り。それについての記事を掲載。なお、こ

のあと同図書館へは、月刊紙も送付を続けた。

○一九七九年二月(365号)

第一七次南極越冬隊員巻田和男氏より、南極から福生の子どもへのお便りいただき掲載。

○一九八二年二月(400号)

珠算学校父母に「月刊・ふっさっ子」にのぞむ。のご意見を寄せていただき掲載。

ふっさっ子500号

○一九九一年三月(500号)

月刊「ふっさっ子」500号のあゆみ、各号ごとの内容を列記。これまでのご協力に感謝。なおこの500号のため、市の有志方々により、市民会館で盛大な祝典を開催していただく。また有志方々で記念誌「福生っ子の年輪」を製作していただきご出席者に贈呈された。

○一九九七年三月(572号)

福生珠算学校五〇周年記念号を発刊。全国珠算学校連盟会長且尾広先生よりご祝辞いただく。また、福生市長さん、卒業生の有志からも励ましをいただく。

二〇〇〇年終刊で隔月刊

○一九九九年五月(593号)

このままですとあと七回。この年の末に600号です。

二〇〇〇年が区切りによし。ということ、594号より隔月刊とした。そして無事、今回で600号に到達できました。

【月刊紙全号が写真のように50号ずつで製本してあります。市中央図書館には、これと同じ複製され置かれています。】